

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名：一般国道40号 <small>びふか</small> 美深道路	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 北海道開発局					
起終点：自： <small>ほっかいどうなかがわ</small> 北海道中川郡美深町字美深 至： <small>ほっかいどうなかがわ</small> 北海道中川郡美深町字敷島	延長：3.3km						
事業概要： 一般国道40号は、旭川市を起点とし稚内市に至る延長約250kmの幹線道路である。 このうち美深道路は、交通事故の低減及び高次医療施設へのアクセス向上等を目的に、市街地を迂回し、美深町字美深から美深町字敷島を結ぶ、延長3.3kmの一般国道のバイパス事業である。							
H19年度事業化	H一年度都市計画決定	H19年度用地着手	H21年度工事着手				
全体事業費	約74億円	事業進捗率	61%	供用済延長	0.0km		
計画交通量	3,400台/日						
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	1.3	総費用 (事業費/維持管理費)	39/84億円	総便益 (走行時間短縮/走行経費減少/交通事故減少)	105/105億円	基準年 平成23年
	(残事業)	2.7	(事業費/維持管理費)	27/13億円	(走行時間短縮/走行経費減少/交通事故減少)	78/18/9.0億円	
感度分析の結果： (事業全体) 交通量：B/C=1.1~1.4 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=2.3~2.9 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.2~1.3 (事業費±10%) 事業費：B/C=2.5~2.9 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.3~1.3 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=2.7~2.7 (事業期間±20%)							
事業の効果等 事業の必要性及び効果 ①救急搬送の安定性向上 ・高次医療施設への救急搬送の安定性向上が期待される。 ②走行環境の安全性向上 ・並行現道の通過交通の分散化により走行環境の安全性向上が期待される。 ③日常活動圏中心都市への利便性向上 ・日常活動圏中心都市である名寄市への利便性向上が期待される。 ④農水産品の流通利便性向上 ・宗谷管内から輸送される生体牛の流通利便性向上が期待される。 ・美深町、音威子府村で生産される生乳の流通利便性向上が期待される。 ⑤CO ₂ 排出量の削減 ・自動車からのCO ₂ 排出量588 (t-CO ₂ /年) の削減が期待される。							
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 旭川市など4市17町2村の首長等で構成される「北海道上川地方総合開発期成会」等より、早期整備の要望を受けている。							
知事の意見： バイパス整備による高次医療施設へのアクセス性や現道交通の分散化による走行環境の安全性の向上など、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はない。 なお、事業の実施にあたっては、環境への影響を最小限にとどめること。また、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。							

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。
 なお、3便益以外の地域の特殊性等を考慮した便益について、引き続き検討されたい。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成20年5月 道立広域公園サンピラーパーク全面開園
- ・平成22年3月 名寄バイパス 名寄IC～美深IC供用
 幌富バイパス 豊富サロベツIC～幌延IC供用

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成21年度に工事着手して、用地進捗率100%、事業進捗率61%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期供用に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

法面小段排水の見直しによりコスト縮減対策に取り組んでいる。

対応方針

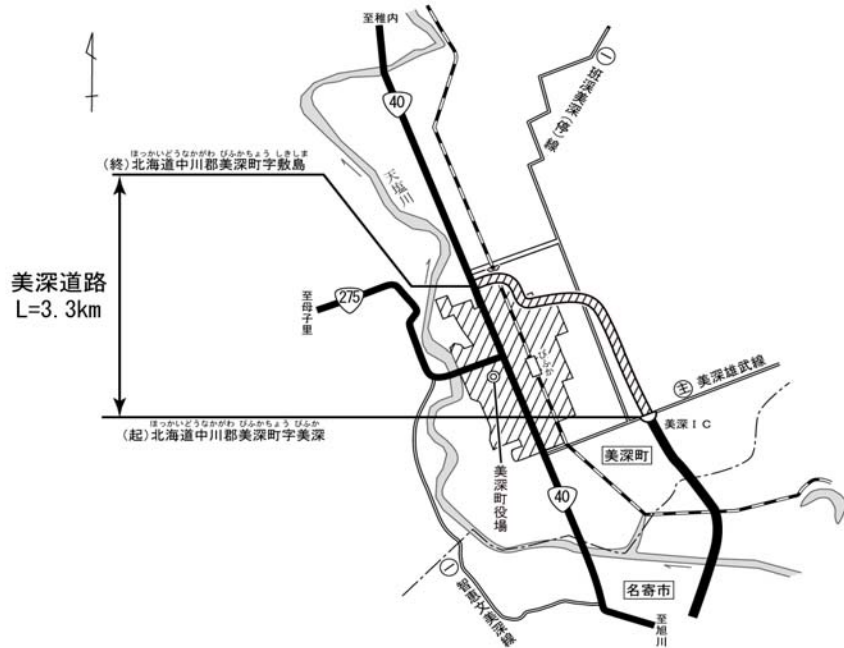
事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性は変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図

凡 例	
	供 用 中
	再評価箇所
	うち供用中



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。